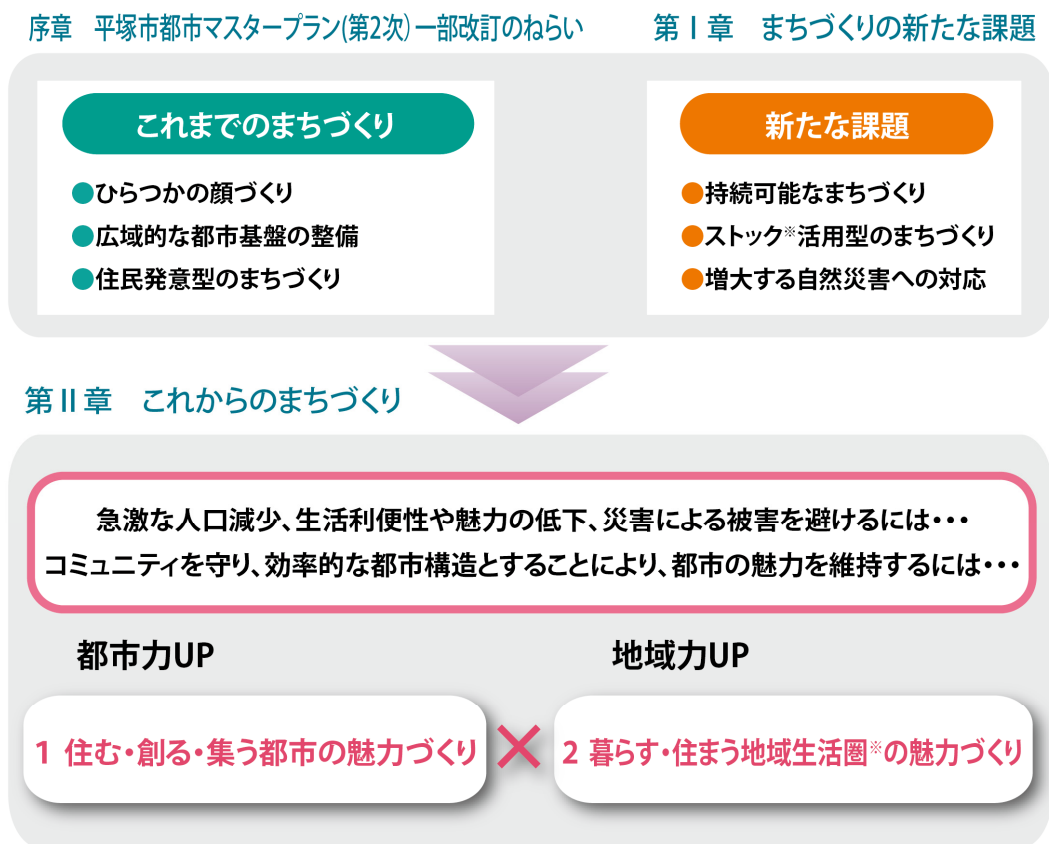


第II章 これからのまちづくり

- 本章では、序章のこれまでのまちづくりと第I章の新たな課題を踏まえ、将来都市像を実現するためのこれからのまちづくりの考え方を示します。
- 平塚市都市マスタープラン（第2次）本冊で示されたこれからのまちづくりの進め方である「既にあるモノまたは新たにできるモノをいかし、つなぎ、有効につかう」という考え方を基本としつつ、「都市」と「地域」の魅力づくりの考え方を追加します。
- これからのまちづくりにおいては、都市の持つ魅力の発信を戦略的に行うシティプロモーション[※]の考え方が大切です。今後は、「都市」全体の魅力だけでなく、各「地域」の魅力を高めていくことを基本とし、その両輪のまちづくりにより、本市内外の人・企業にアピールできる「まち」をめざします。

第II章構成図



Ⅱ.1 住む・創る・集う都市の魅力づくり

- ▶ これまでのまちづくりと、新たな課題を踏まえ、本市の都市全体としての魅力を高め、都市の活力を向上させていきます。そのためには、まちづくりの目標として設定されている「住む」「創る」「集う」という3つの要素が欠かせません。
- ▶ これまで取り組んできた、中心市街地やひらつかセントラルパークなど商業・文化・スポーツの活力・にぎわいづくり、ツインシティにおける新たなまちづくり、ひらつかなぎさステージやひらつかウェスタンヒルズなどの良好な自然環境を活かした魅力づくりなど、本市の有する多様性と実績をいかし、環境負荷に配慮するとともに、これからの「ひらつかの顔」としての魅力づくりをさらに進めることにより都市力を高めます。

● 「住む」災害にも安心して住めるまちづくり

- ・日本はさまざまな自然災害の脅威にさらされています。防災はまちづくりにおいて重要なテーマですが、防災のみを考えていても魅力あるまちをつくることにはなりません。
- ・防災「も」まちづくりの視点で、魅力ある環境を創造しながら、安全なまちづくりを進めます。
- ・本市沿岸部は、津波災害の危険性がありますが、観光地としても重要な地域であり、「海と共存するまち」を目指し、地域の魅力を創出しながら防災減災[※]対策を推進する地域としてまちづくりを進めます。
- ・その他の地域においても、地域単位でのまちづくりを進める上で、「防災」を1つのきっかけとしながら、地域防災力[※]を高め、災害に強いまちづくり、魅力ある地域づくりを進めます。

● 「創る」次世代産業の育成と既存産業の振興のしくみづくり

- ・製造業等を主体とした既存の産業集積を今後も維持・発展させていくため、引き続き新たな産業の誘致と産業集積地における操業環境の保全と向上を図ります。
- ・今後も生産機能の再編や土地利用転換が予想されますが、その後の土地利用や環境整備のあり方を機動的に調査・検討できる体制をつくり、産業基盤を維持するとともに、周辺の居住地との共生が図れるまちづくりをめざします。
- ・ツインシティ大神地区など、新たなまちづくりを展開する地域においては、新分野の産業の誘致を図り、産業分野の多様化を図ります。
- ・中心市街地においても、建て替えや再開発などの契機や空家等[※]の活用などにより、新たな仕事を生み出す機能を誘導し、異分野連携を促進する産業環境づくりを図ります。
- ・市内に集積している企業や研究所、大学等の地域資源が協働し、次世代産業を育成する環境づくりを進めます。

●「集う」中心市街地に人、知恵、技術が集う魅力づくり

- 平塚駅周辺地域は本市唯一の鉄道駅のある中心市街地ですが、様々な人が様々な目的で「集う」魅力と機能をもつ必要があります。
- このため、中心市街地に、買い物や飲食などの「消費」の機能だけでなく、共に「働く」場、「趣味や学び」に集う場、「憩い」の時間を過ごす場、企業や大学、市民が「連携」する場などの機能や要素を加え、総合的なまちの魅力を高めていきます。
- 検討にあたっては、中心市街地周辺に立地しているスポーツ施設や本市の産業を支える企業集積、店舗等の商業集積など既存の「資源」の価値を見直し、適切に活用することを基本とします。
- 中心市街地の魅力づくりには回遊性を高めることも重要です。各通りの特性に注目し、通りごとの特徴と個性を高めていくための機能の誘導や空間の整備・誘導を進めて、中心市街地の回遊性を高めていきます。
- 中心市街地の整備にあたっては、ひらつかセントラルパークの整備など周辺の拠点整備や、建物の更新とあわせ、特に公共空間に魅力を加え、人々が回遊し、滞在したくなる地域として魅力づくりを段階的に進めていきます。

●住む・創る・集う次世代型まちづくり

- ツインシティ大神地区は、土地区画整理事業[※]を施行する組合の設立が認可され、基盤整備に着手しており、これからまちを形成する過程に入ります。
- 本市を代表する大規模なまちづくりであり、今後の「住む・創る・集う都市づくり」を複合的に実践していく先導的な地区といえます。
- そのため、これまでのまちづくりの知恵と環境や交通面など新たな技術等を導入し、次世代につなげていくまちづくりの展望を示すまちをめざします。

Ⅱ.2 暮らす・住まう地域生活圏[※]の魅力づくり

- ▶ 住みやすいまちとして魅力を感じてもらうためには、歩いて暮らせる生活圏[※]に暮らしを支える機能があることが重要です。また、職住近接、駅や商店街の利便性とにぎわい、海辺・川辺・山辺の自然や田園環境など、ライフステージやライフスタイルに応じた居住地選択が可能な多様な住宅ストック[※]があることが重要です。
- ▶ 今後は、暮らしを支える機能の確保と地域ごとの魅力を高めるための「地域のビジョン[※]」づくりを通して、地域ごとに必要な取組みを選択し、多様な主体によるまちづくりを進めていくことにより地域力を高め、多様な暮らしと住まいがある地域生活圏の実現をめざします。

●地域の魅力と特性に応じた地域生活圏の形成

- ・本市は、職住近接の地域、駅や商店街に近い利便性とにぎわいがある地域、海辺や川辺や田園の自然豊かな環境がある地域など、多様な価値観とライフスタイルに対応できる地域が集合して成り立っています。
- ・このような地域の特性や個性とライフスタイルに応じて、地域生活圏の拠点への機能の誘導・集積を公共施設の再編を含めて進めます。
- ・また、各地域の拠点が相互に役割を補完できるよう、拠点間の公共交通等のネットワークを維持・強化し、環境負荷に配慮するとともに、市全体として都市機能を維持していくことをめざします。

●住宅ストックの活用と多様な住まいの創出

- ・市民が快適に住み続け、他の都市からの転入を受け入れていくためには、ライフステージに対応した住み替えや新規の住宅取得を可能とする、多様な住宅ストックが必要です。
- ・そのためには、一定の住宅が新たに供給され、既存の住宅ストックが再利用される環境づくりが必要です。
- ・増加しつつある空家等[※]は、利用可能な地域資源と捉え、街なか居住の推進とまちの魅力向上、利便性の高い地域への居住者の誘導、安心して住み続けるための地域コミュニティ[※]の維持と活性化をめざします。
- ・また、中心地域、沿岸部、郊外などそれぞれにおいていかすべき地域特性を見極め、その魅力を高める住宅地づくりを行っていくことにより、ライフスタイルやライフステージに応じて多様な暮らし方が選択できる地域づくりをめざします。

「都市」全体の魅力と各「地域」の魅力を高めるこれからのまちづくり

【これからのまちづくりの進め方】の基本的な考え方

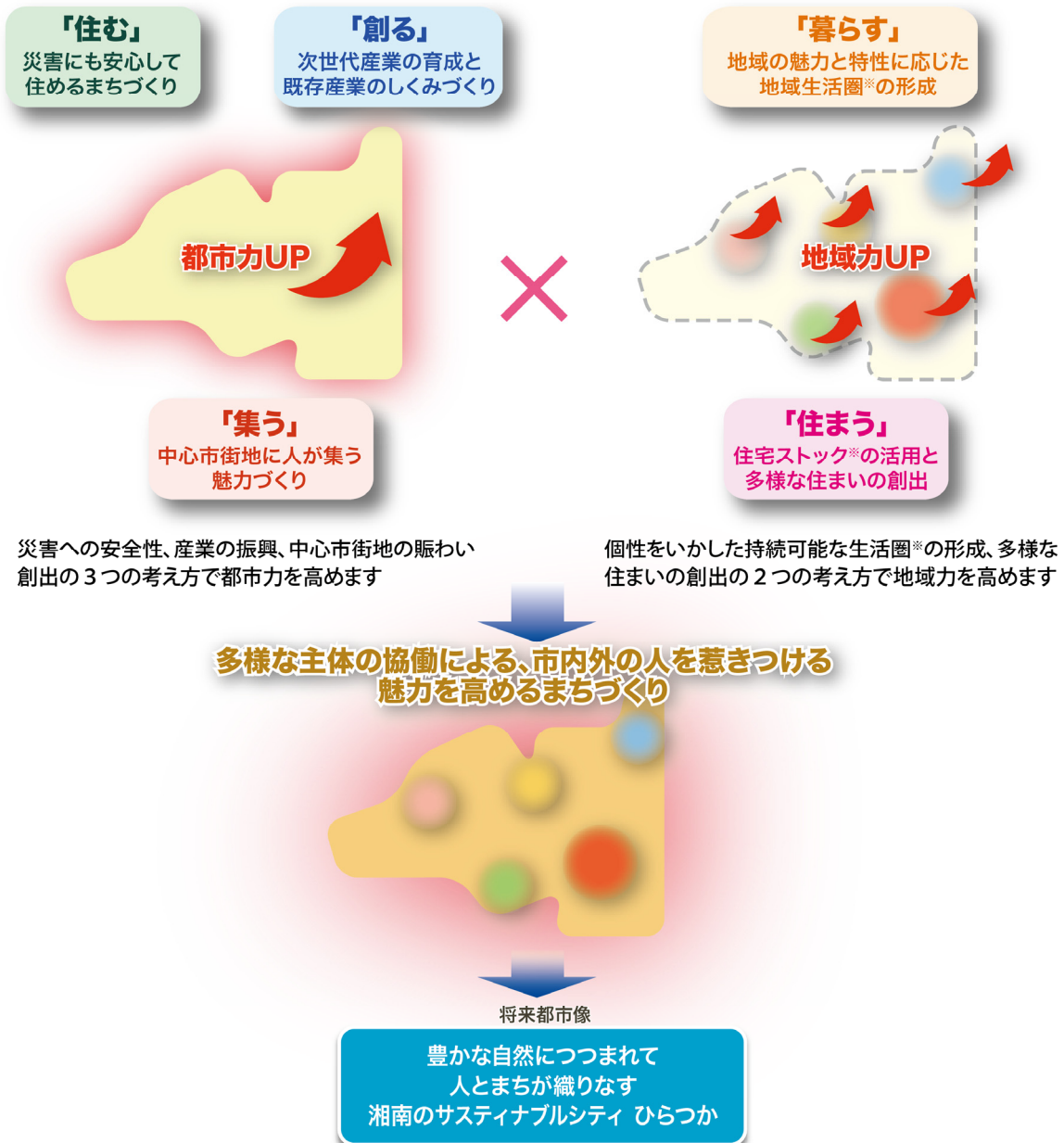
「いかす」と「つなぐ」と「つかう」

既にある様々な都市基盤や自然資産、また新しくできる都市基盤、地域力や市民力などをいかし、これらを相互につなぎ有効に使っていきます。

そしてこれらを手のひらのように、外に向かって広くつないでいくと共に、次世代に誇れる持続可能な都市としての発展をめざします。

注：平塚市都市マスタープラン（第2次）本冊より引用

【これからのまちづくりの進め方】に「都市」と「地域」の魅力づくりの考え方を追加します



注：平塚市都市マスタープラン（第2次）本冊より引用